

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2372102216
法人名	南部薬品株式会社
事業所名	グループホーム リズム
訪問調査日	平成20年10月24日
評価確定日	平成20年11月17日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2372102216
法人名	南部薬品株式会社
事業所名	グループホーム リズム
所在地	岡崎市若松町字西之切50 (電話) 0564-58-3530

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成20年10月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	6人, 非常勤 11人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月2日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	7名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80 歳	最低	74 歳	最高	91 歳
協力医療機関名	幸田中央クリニック・岡崎南病院・あおばクリニック・丹羽歯科医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR岡崎駅南約2キロの昔ながらの集落の中に、4,000㎡もの広大な土地に複合介護施設『なんぶの郷』が建っている。入居者の残存能力を維持するだけでなく、向上・強化させ家庭へ戻すことを目標とし、手を出しすぎず、できないことは入居者同士が『たすけあい』、お互いが支え合う生活を実践している。訪問時にも食事が進まない隣の人を気遣い声をかける姿が見られた。併合施設の老人ホーム、デイサービスセンター、ショートステイにある、リフト付き大浴場や車いすのまま入れる特殊浴槽、足湯などバリエーションに富んだ設備を入居者も利用することができる。また、入居者の残存能力の維持、強化のため、介護予防資格者による器械を利用したのリハビリなど、入居者を飽きさせない取り組みが行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価を受け窓のストッパーは、全員ではなく家族の要望のある方のみ使用するようにしている。地域からは運営推進委員会を通じ地域総代から地域の催しとして、「昔の遊び」を開催するので、ぜひ入居者の力を貸してほしいと、双方向の交流が実現できている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は昨年までフロアリーダーの立場で自己評価を受けたが、今年は管理者として求められる資質の違いを痛感している。また、職員の自己評価を見て普段は声に出さない思いを知ることができた。職員は設問に関し具体例があればもう少し適切な回答ができたと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域総代、民生委員、家族、施設長補佐、職員、市役所職員、フロアリーダー、地域包括センター職員により隔月で開催されている。地域総代からイベントで「昔の遊び」を開催するので入居者にも声をかけいろいろ教えてほしいと積極的に要請される。新たに消防職員、駐在にも加わってもらい入居者に直に消火器の使い方など指導してもらえよう計画している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年2回家族会があり、午前の家族会後に食事を入居者と共にし、午後からは個別の面談を行い意見をうかがっている。家族には法人の相談窓口も案内しているが、直接職員や管理者に要望を伝えてくれる。家族アンケートも実施し、それを基に職員会議で対応を検討している。家族の意向などを全職員が把握するため、出席できない職員には議事録を回覧している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域清掃、子ども110番、廃品回収などで入居者が地域に貢献している。近所からは農作物、流しそうめんの竹を頂いたり、ホームの夏祭りに招待している。また、災害時には避難場所として施設全体で地域住民を受け入れる体制ができている。ホームの前が通学路になっており、朝晩挨拶を交わすうちに子どもたちとも顔馴染みとなった。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価を受け、入居者にも分かりやすいように『いたわりあい、たすけあい、おだやかに、ともにくらす』を平仮名にした。法人の理念は『地域を愛し、地域とともに、地域社会に貢献する』と地域密着を先行して取り入れられている。		法人理念に謳われているように、いかに地域に溶け込み、地域に愛され、地域に入居者の持つ力で貢献していくかを、『ホームは入居者にとって家である』という視点に立ち、ホームとしての姿勢を文言により表せるよう、職員と協議され具体化されるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り、月1回の唱和、カンファレンス後に理念の確認をしている。手を出しすぎず入居者同士が、「たすけあう」ことを理念としており、管理者、リーダーは若い職員がつつい手を出してしまうたびに、理念を説明し入居者の残存能力を維持だけでなく強化しようと努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域清掃、こども110番、廃品回収などで入居者が地域に貢献している。近所からは農作物、流しそうめんの竹を頂いたり、ホームの夏祭りに招待している。また、災害時には避難場所として施設全体で地域住民を受け入れる体制ができています。ホームの前が通学路になっており、朝晩挨拶を交わすうちに子どもたちとも顔馴染みとなった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は昨年までフロアリーダーの立場で自己評価を受けたが、今年は管理者として求められる資質の違いを痛感している。また、職員の自己評価を見て普段は声に出さない思いを知ることができた。職員は設問に関し具体例があればもう少し適切な回答ができたと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域総代、民生委員、家族、施設長補佐、職員、市役所職員、フロアリーダー、地域包括センター職員により隔月で開催されている。地域総代からイベントで「昔の遊び」を開催するので入居者にも声をかけいろいろ教えてほしいと積極的に要請される。新たに消防職員、駐在にも加わってもらい入居者に直に消火器の使い方など指導してもらえよう計画している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは毎月2名介護相談員が訪れホームの実情、困難事例などの相談をしている。ホームを含む施設のケアマネジャーが毎月市を訪れ、空室情報など提供している。加盟する市のグループホーム小部会で話し合ったことを代表が市にかけ合い、遠足などで市のバスを提供してもらえよう要請した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月で『リズム便り』を発行し、家族に写真で近況を知らせたり、イベント参加を呼びかけている。今後、毎月発行できるよう検討している。入居者の知人にも気軽に寄ってもらえよう家族にお願いしている。状態の変化があった時は直ちに電話し必要であれば家族の意見を聞き介護計画の見直しに繋げている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会があり、午前の家族会後に食事を入居者と共にし、午後からは個別の面談を行い意見をうかがっている。家族には法人の相談窓口も案内しているが、直接職員や管理者に要望を伝えてくれる。家族アンケートも実施し、それを基に職員会議で対応を検討している。家族の意向などを全職員が把握するため、出席できない職員には議事録を回覧している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期異動はない。施設内異動があっても毎日会えるので入居者は気づかないこともある。昨年度管理者が退職や施設内異動により2度変更しており、フロアリーダーが現在の管理者となっている。法人のスキルアップ支援制度も功を奏し職員が以前より定着するようになった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームを含む施設全体またはホーム単体での内部研修は毎月のように開催されている。パート、職員を問わず研修時間を日勤帯とすることで有給扱いで外部研修に参加できるよう工夫している。各種資格に合格した場合、法人からお祝いとして講習費用の半額程度が支給され、職員のスキルアップを支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月で市内のグループホーム小部会の意見交換会や勉強会が開催されこれまでは管理者、フロアリーダーが参加していたが今年から職員も参加できる体制にした。昨年度の評価を受け入居者の重度化に関し経験のある他のホームのアドバイスを受けた。ただ実際の重度化の経験がなく重度化対応指針の文書化に取組中である。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族には事前の見学、体験を勧めているが現在入居待ちが数名ある。どの家族も早急の入居を希望されていることが多く、切羽詰まった家族の苦勞に管理者は心を痛めている。来年からは共用スペースを活用し、1日3名のデイサービスを予定しており家族にも体験、見学しやすくなるよう計画している。即入居が多いため入居時は本人とじっくり時間をかけ要望の聴取などに励んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	必要以上に手を出さず職員よりむしろ入居者同士が助け合えることでより自立した生活を支えることを理念としている。訪問時にも他の入居者の様子を気遣う言葉をかけたり、他人の分まで食器を片づける姿が見られた。入居者は職員の思い以上に職員を見ており、「大丈夫?」「ちょっとここへ座って休みな」と優しく気遣ってくれる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常的に気軽にゲーム形式で行きたい場所を聞いたり、手を挙げてもらったりして入居者の希望や意向を聞きだしている。盆になると必ず「墓参りに行く」と一人でシルバーカーで出かける人もある。また、自分で家族に電話して声を聞くと落ち着き納得される人もいる。男性職員は女性入居者に人気があり、本人の意向を把握するのに大活躍している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者との面談表や家族の意見、意向を聞き、介護計画を作成している。その後計画を実施しながら様子を見て、再度計画を見直し、家族からの同意を確認している。申し送り、カンファレンスなど職員同士意見を出し合いながら作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>合同ミーティングで、気になっていること、観察したことなどを話し合い、対応を検討する。そしてサービス担当者会議で3カ月、6カ月ごとに介護計画を見直している。参加するのは家族、担当者、看護師、管理者、日勤者、ケアマネジャーである。家族との面会時や電話連絡時に担当者会議参加のお願いを一言添えている。入居者の状態に変化があった場合は、その都度計画を見直し、家族には電話で連絡している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、入居者は協力医（内科、心療内科）の往診を定期的に受けることができる。複合施設のメリットを活かし、3人の予防介護員の資格保持者の指導の下、入居者はデイサービスが終わってからトレーニングマシンを使用しての介護予防運動ができる。各種イベントや行事への参加やボランティアによる週1回のマッサージも受けることができる。共用スペースを活用して少人数をデイサービスで受け入れる予定をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の希望によりホームの協力病院、入居前のかかりつけ医に受診できる。ホームの協力医は内科が月2回、心療内科が月1回、訪問歯科は状況に応じるが最低でも3カ月に1回である。入居前のかかりつけ医に受診する時の通院介助はなるべく家族にお願いしているが、家族が困難な時にはホームで対応する。家族から詳しい受診の内容を報告してもらい、日報や連絡ノートにすぐ記入している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、24時間看護師との連絡、協力体制がある。ホームとして入居者に「看取りをします」と話す一方で、全員の入居者に特別養護老人ホームの予約も依頼している。重度化に向けての研修会や看護師を講師とした勉強会も今年中に予定されていて、少しずつ重度化した場合の対応に係る指針作りの準備が進んでいる。</p>		<p>ホームでどこまで見られるか、どういう状況になったら医療に委ねるか、文書化が重要である。医療機関との連携を確立し、入居時に文書で確認できるよう期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いについては、職員に説明しており、入居者にも同意書を貰っている。記録類は事務所で保管している。プライバシーマークを取っていて、年1回プライバシーの監査を受けている。職員間では入居者の頭文字で話すようにし、排泄支援での言葉遣いや、馴れ合いすぎる話し方、声の大きさなどについて留意するようにしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>距離別に3コース設定し能力に合わせ毎日外出し、皆で決めた献立にしたがい1日おきに近所のスーパーへ買い出しに出かけている。家族には積極的に外出、外泊を勧め入居者も喜々として家族と出かけている。油絵、刺し子、編み物、藁草履作りなど、本人の持っている力を発揮してもらえよう支援している。男性でもミシン縫製を得意とし料理も上手な方もいる。うどん作りの名人もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼、夕の献立は皆で決めてから、入居者も一緒に買い物に出かける。ほとんどの入居者が調理、配膳から後片付けまでを職員と一緒にでき、職員と一緒に食事を楽しんでいる。遠足や花見などではおにぎりを作り、行楽では入居者が一人ひとり好みの弁当などを買い求める時もある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は平均1日おきであるが、毎日の入浴希望にも応じている。入浴時間はいつでもよいが、感染予防のため一人づつ湯をはり替えている。圧迫骨折などの症状により週1回入浴の方もいるが、毎日清拭して清潔を保持している。月1回位「温泉に行こうか」と施設内の「若松の湯」に行き、皆で体を流し合っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は一人ひとりの生活歴や力を活かした役割として、掃除、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事準備、畑仕事、針仕事などを行っている。フラダンス、民謡、押し花、カラオケなどのイベントには職員も共に参加して楽しみを共有している。計算や漢字ドリル、折り紙、散歩も日課にし、バーベキュー、流しそうめん、夏祭り、運動会、遠出の行楽などの多くの楽しみもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しは入居者も一緒に出かけている。一人で薬局に買い物に行く人もおり、散歩中に近所の人から野菜や果物、花などを頂くこともある。中庭やホーム建物の周りを歩いたり、中庭のベンチに座り外気浴を楽しんでいる入居者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	7時から21時まではオートロックを解除し、中庭に面した窓も開けてある。居室の窓は、家族からの要望があるとストッパーをかけている。独りで外出する方には、職員に声をかけてから外出してもらうようお願いし、「ちょっと行ってくるね」と言って外出されるようになった。入居者の表情や挙動から外出したような様子を察して、職員が入居者の外出にそっと連れそうこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの隣地が避難所の小学校である。運営推進会議で地域総代より、地震や火事などの時に避難所として地域の人々のホーム駐車場使用を依頼されている。年2回入居者も参加して避難訓練を実施しており、個々の避難袋にはリハビリパンツ、下着、長袖などの着替えと乾パン、水が入っている。懐中電灯、ラジオ、紙食器、ポータブルトイレ、ヘルメット、名札、ラップなどの備品の準備もされている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの関係会社の栄養士に月2回、献立について点検してもらっている。運動、食事、薬とで糖尿病の数値が改善している入居者もいる。水分を取りやすいようお茶ポットを置き、自由に飲んでもらえるようにしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは、3階建ての1階にあり、ベンチ、テーブルの置かれた芝生の中庭に出やすい。中庭と反対側には、柿や流しそうめんを使う竹をお裾分けして下さる大きな敷地の家があり、緑の木々を渡ってくる風が心地よく、鳥の囀りも聞こえてくる。手作りの大きな日めくりやイベントでの入居者の写真、イベント予定表が掲示され、季節感のある飾りつけがされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には表札を写真や作品と一緒に飾る入居者が多い。ベッド以外は使い慣れた家具や道具、趣味の品々でその人らしい居室になっている。家族の同意をもらって使用している「見守りカメラ」は、目立たないように設置されている。絵の好きな方は綺麗な色使いの塗り絵が壁一杯に貼ってある。部屋の掃除は各自で行い、状況に応じて職員が支援している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。